

第5節 連携・協働分野 教育・パートナーシップ

環境基本計画 目指す姿（長期的な目標）

全ての人が環境を学び、考え、行動することで、
環境施策に「協働」で取り組んでいるまち

関連するSDGs



分野別評価指標の現状と目標

指標	基準（R元実績）	現状（R3実績）	目標（R12）
生物多様性関係団体数	15団体	15団体	のべ150団体 (10年間)
地球温暖化対策に関する出前講座の メニュー数	6講座	6講座	10講座
市民との協働による森林整備面積	10 ha	10 ha	13 ha

1 環境教育の推進、環境意識の向上

（1）環境教育・環境学習の実施状況

市では、環境に関する市民等の意識や関心を高めるため、学校や地域の団体に対して環境教育・環境学習事業を実施しています。

令和3年度は延べ8校355人に対して自然観察や省エネなどに関する学習を行いました。

表7-1 令和3年度 環境教育・環境学習事業実施状況

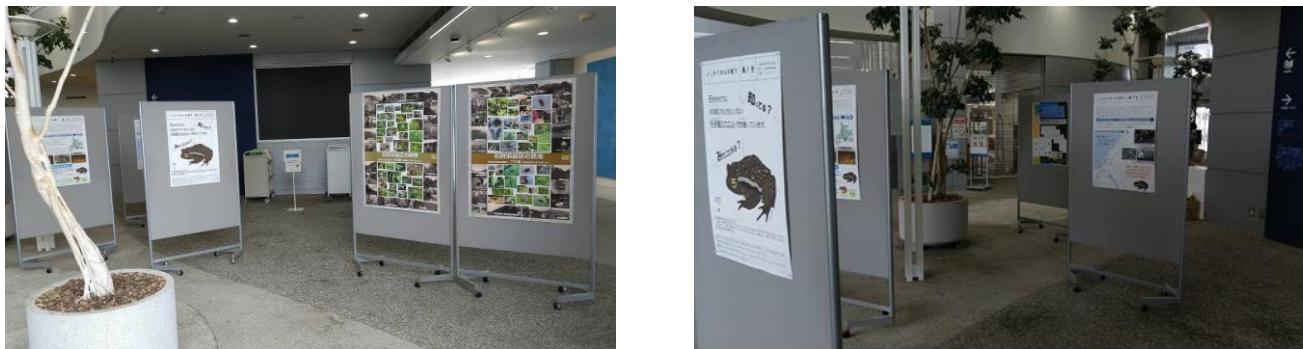
ジャンル	プログラム名	参加人数（回数等）
自然環境保全に関する取組	石狩の自然と保全	355人（8校）

（市環境課実施分）

(2) 環境展示

市民の環境に対する興味・関心を広げてもらえるよう、市では環境ポスター展などの環境展示を実施しています。

令和3年度は令和3年7月6日（火）～7月20日（火）に石狩市民図書館にて環境ポスター展示を開催しました。



写真：令和3年度環境ポスター展の様子

(3) GIS を活用したオープンデータの取り組み

本市は、豊かな自然環境を有し、多種多様な動植物が生息・生育しています。自然環境調査などで蓄積している市の貴重な動植物情報をデータベース化し、公開可能な情報はオープンデータとしてまとめ、令和3年3月に「石狩市環境情報等オープンデータポータルサイト」を公開しました。また、クマ出没情報や交通事故、不審者情報等のみなさんの生活環境に関わる情報も、このサイトで閲覧・活用することができます。

石狩市環境情報等オープンデータポータルサイト

Q. 検索...

データを見る・ダウンロードする
※利用に当たっては、こちらをご確認ください。

自然観察・体験

動物

エネルギー

暮らし

情報・写真を投稿する

投稿フォームでは、次のような情報を写真や地図のデータとともに投稿することができます。
投稿されたデータは、市の自然環境の基礎的なデータや周辺への注意喚起などに活用させていただきます。

- 市のオープンデータの活用事例
- 市内で見つけた自然景観や体験
- ヒグマの目撃情報
- カエルの目撃情報

<https://environment-ishikari.hub.arcgis.com/>

図 7-1 石狩市環境情報等オープンデータポータルサイト

2 様々な主体との連携・協働

(1) 薪割りプロジェクト「NINOMIYA」

NPO法人ezorockが取り組んでいるプロジェクトの1つ「プロジェクトNINOMIYA」は、森林に興味のある若者が中心となる活動をコンセプトに、厚田区・浜益区の森林から出る間伐材や未利用材を活用し、それを薪にしてカフェやゲストハウス、レストラン等で使用してもらう取組です。

また、カーボンニュートラルエネルギーの創出にとどまらず、薪割り体験プログラムとしての環境学習や、市外の子どもたちとの農山漁村交流コンテンツとして、過疎地域と都心の若者や子どもたちとの関係人口へも寄与する取組となっています。

(2) いしかり・ごみへらし隊

ごみの減量やリサイクルの推進は、市だけでできるものではなく、市民・事業者・市がそれぞれ自らの問題と考え、連携して取り組む必要があります。

「いしかり・ごみへらし隊」は、市民・事業者・市が一体となって、ごみの減量のために何ができるのかを話し合い、できることから実際に取り組みを進めていくことを目的に、平成13年9月に発足しました。

現在、隊員と市の担当者が、ごみやリサイクルに関する様々なテーマについて広く話し合う「作戦会議」を定期的に開催しており、令和3年度は8回の開催で、毎月の市広報誌の原稿作成を行いました。(表7-2)。

表7-2 令和3年度 ごみへらし隊の活動内容

活動	内容
「ごみ減量のげん太くん」の市広報への連載	市民にお知らせしたいごみに関する色々なことを4コマ漫画で表現し、市広報誌に掲載 ・H21.12～毎月

※例年実施しているエコ体験ツアーは、新型コロナウイルス感染症対策により中止

(3) 花いっぱい運動

住み良いまちづくりを推進するため、市が花の苗を助成し、市民が道路植樹帯や公園などに植栽を行っています。

令和3年度は、ペチュニアやマリーゴールドなど51,458株を植栽しました。

また、花いっぱい運動に参加した団体には花壇コンクールにも参加してもらい、例年表彰を行っていますが、令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため開催していません。

(4) 石狩川歴史の森植樹祭

先人の偉業をたたえるとともに、人と自然のふれあいの場となる「石狩川歴史の森」をつくるため、札幌河川事務所などと協力して茨戸川河川敷地で植樹を行っています。この計画では20万本の植樹を目標に掲げており、令和元年度は、緑化団体など58人が参加して、20種250本の植樹を行いました。(令和2、3年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため中止。)

(5) 市民参加による森づくり

本市の重要な水産資源を守り育てるため、厚田区においては漁協女性部による「お魚殖やす植樹活動」や、森林ボランティア団体のクマゲラ、やまどり等による「あつたふるさとの森」への植樹活動、浜益区においては浜益魚つきの森推進協議会による「浜益魚つきの森植林活動」等が実施されています。

また、市と市民による森づくり協働事業としては、平成22年度から「キノシュ木育里親運動」をクマゲラと実施しております。この事業は、ミズナラやエゾヤマザクラの種子を市民に配布し育てていただき、発芽して1年程度経ち20～30cmほどになった苗を回収するという取組です。市民に育てていただいた苗は、育苗畑で更に1mほどになるまで育て、「あつたふるさとの森」の植林活動地域に植樹しています。